

連載

Turbo

HAMLOGの

部屋

Turbo HAMLOG開発者
JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第8回

Turbo HAMLOG/Winの入力環境設定

Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) の[入力環境設定]についてご紹介します。

入力環境設定について

入力環境設定では、入力ウィンドウ (LOG- [A] ~ LOG- [F]) や修正ウィンドウをそれぞれ個別に設定

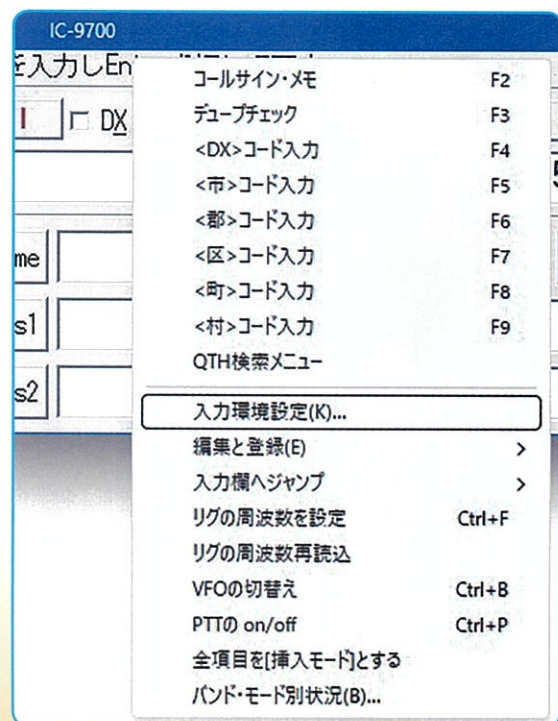


図1 入力ウィンドウの右クリックメニュー

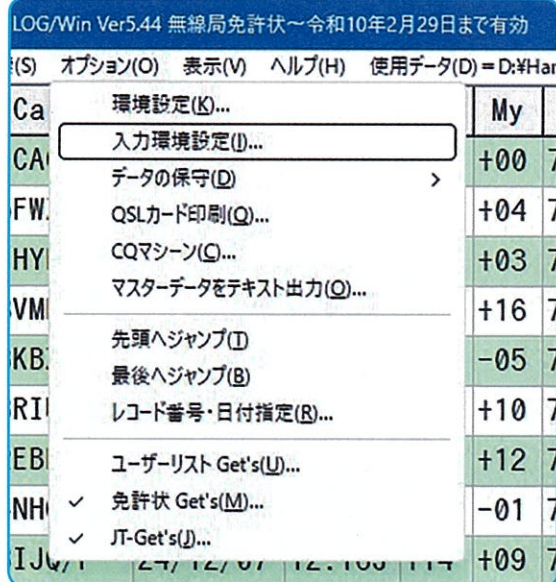


図2 HAMLOG のオプションメニュー

することができます。

図1は、HAMLOG の入力ウィンドウ上での右クリックメニューです。メニューの中ほどに[入力環境設定]があります。

図2は HAMLOG のオプションメニューで、こちらにも[入力環境設定]があり、どちらを選択してもかまいません。

図3は入力環境設定ですが、[リグ接続設定]タブ

のほうは本誌 2024 年 12 月号でご紹介しましたので割愛させていただきます。

図3, 入力環境設定 [ログ入力設定] タブの主な機能についてです。

図3 IME 自動起動

日本語入力するための IME が自動起動する項目を指定します。

頭文字は、市郡区町村コードを選択入力するときの、地名の頭文字です。

図3 各入力項目

入力ウィンドウの各入力項目を Enter キーや↑キーでカーソルを前後させたときに編集可能な (カーソルがいく) 項目を指定します。

図3の例では、Enter キーでカーソルを進めると周波数、モード、グリッドロケーター、QSL の欄は省略します。

Tab キーや Shift + Tab キー、あるいは直接マウスでカーソルを前後させた場合は、すべての入力項目が編集可能です (環境設定の [設定 3] タブの “[Tab] キーでクリア” にレ点を入れると Tab キーでのカーソル移動はできません)。

図3 編集・色

文字を入力する編集ボックスの背景色を指定します。初期値は白です。

図3 ☐ RST 欄は S 位置

ここにレ点を入れておくと、His RST や My RST では 2 文字目 (信号強度の位置) にカーソルがいくようになります。

図3 Remarks1 保存 Remarks2 保存

ここにレ点を入れておくと、QSO データの登録や、入力ウィンドウをクリアしてもこの項目だけクリアされません。

自局が移動運用で、運用場所等の定型の文字列を入力しておくときに便利です。

筆者の場合は、移動運用のときは [Remarks1 保

図3 入力環境設定で、LOG-[A] の設定状況

存] にレ点を入れ、入力ウィンドウの Remarks1 に自局運用場所を書き込んでおきます。

レ点を入れなければ交信が終わるとすべてクリアされますが、レ点を入れておくと Remarks1 の自局運用場所がクリアされずそのまま残りますので便利です。環境設定の [設定 2] タブに自局運用場所を登録しておくよりもお手軽で筆者のお気に入りです。

図3 DX局はUTC

入力ウィンドウの交信時刻は、コールサインを入力して Enter キーを押した瞬間の時刻が入りますが、図4のように、ここで [DX局はUTC] / [すべてUTC] / [すべてJST] を選択することができます。

[DX局はUTC] では、コールサイン欄の [DX] にレ点が入った場合、時刻が UTC (協定世界時、日本時間よりも 9 時間遅い) で入力されます。HAMLOG では、コールサインで DX 局か JA 局かを自動で判断します。

[すべてUTC] では、国内 QSO も DX-QSO もすべて UTC で入力されます。

[すべてJST] では、国内 QSO も DX-QSO も JST で入力されます。

図4 入力環境設定における交信データの JST/UTC 選択

図3 Remarks欄への取込み

HAMLOG ユーザーリストや、ご自分で作成した登録済みテキストデータの取り込み方法を設定します。

「最初→」が選択されているデータを最初に検索しますので、図3の例では最初にHAMLOG ユーザーリストから検索し、名前やQTHを取り込みます。

Remarks欄への取り込みは、レ点が付いているユーザーリスト(U)やテキストデータ(V)や(W)にヒットしたとき、それぞれその備考欄をRemarks2に、Remarks2が空欄でなかったらRemarks1に取り込みます。

図3 移動局は登録済みデータからQTHを取り込まない

ここにレ点を入れておくと、移動局のコールサインを入力した際に、HAMLOG ユーザーリスト等の登録済みデータ中のコード、QTHを取り込みません。

移動局なのに常置場所のQTHが取り込まれてしまうのを防ぐためには、ここにレ点を入れておいてください。

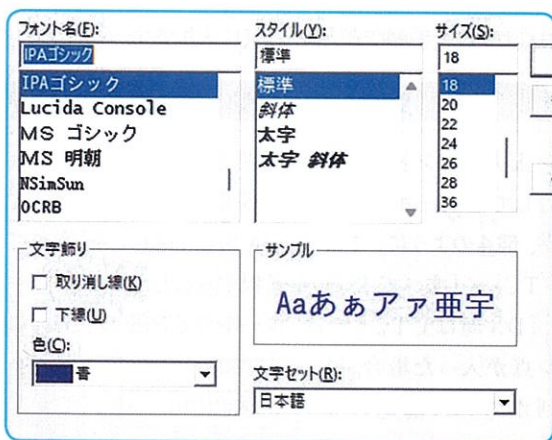


図5
入力環境設定に
おける入力ウ
ィンドウのフォ
ント
設定

図6 入力ウィンドウの
表示色をカスタ
マイズした状
況

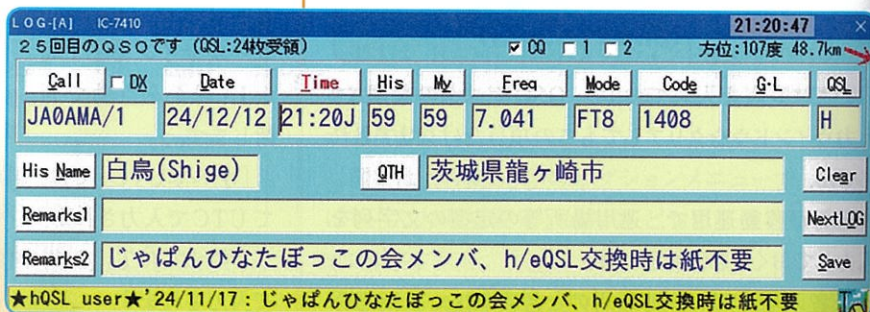


図3 入力ウィンドウ右上の時計はUTC

ここにレ点を入れておくと、入力ウィンドウのタイトルバー右側に表示される時刻がUTCとなります。

図3 G・Lを取込む

ここにレ点を入れておくと、HAMLOG ユーザーリストやテキストデータにヒットし、そのQTHまたは備考欄にGL:PM78XXのような文字列がある場合、グリッドロケータ欄に取り込みます。

QTHを優先し、QTHにGL:がなければ備考のGL:を取り込みます。

HAMLOG ユーザーリストにグリッドロケータを記載しておくときは、半角大文字でGL:に続けてQTHまたは備考欄にグリッドロケータを記載してください。

図3 ボタン・色

入力ウィンドウの編集集中の(カーソルがある)データ編集ボックスの上にある、ボタンの文字の色を設定します。初期値は赤です。

図3 ウィンドウ色

入力ウィンドウの色を指定します。初期値はボタンと同じ色です。黒を指定すると初期値に戻ります。

図3 フォント

図5のフォント設定ダイアログが表示され、入力ウィンドウ、修正ウィンドウそれぞれの入力文字のフォント名、スタイル、サイズ及び文字色を指定します。飾り文字は保存しません。

フォントサイズを大きく設定すると、入力ウィンドウも大きくなります。

Shiftキーを押しながらフォントボタンをクリックすると、コールサイン欄だけのフォントを変更することが

できます。

Ctrl キーを押しながらフォントボタンをクリックすると、Date, Time, His, My, Freq, Mode, Code, GL, QSL の項目のフォントを変更することができます。

本誌 2024 年 9 月号でご紹介した IPA ゴシックというフォントは、数字のゼロに斜線が入りますので、筆者のお気に入りです。

図6の入力ウィンドウは、これらの設定変更により次のとおり色を変えてみたものです。

- フォント名 IPA ゴシック
- フォントサイズ 18
- 文字の色 青色
- 編集ボックスの背景色 薄い黄色
- ウィンドウの色 水色

図3 同じ内容で設定

このボタンをクリックすると、入力ウィンドウ LOG- [A] ~ LOG- [F] が、ただいま設定した内容で一律に保存されます。

HAMLOG の右クリックメニュー

HAMLOG には、マウスの右クリックで表示されるポップアップメニュー、いわゆる右クリックメニューにいろいろな機能があります。ここでは、前号までにご紹介しなかった機能で主なものについてご紹介します。

Turbo HAMLOG/Win Ver5.44 無線局免許状～令和10年2月29日まで有効					
ファイル(F) 検索(S) オプション(O) 表示(V) ヘルプ(H) 使用データ(D)=D:料					
No	Call	Date	Time	His	My
40839	JA1	データの修正(E)			-13
40840	JA3	データの追加(A)			+01
40841	JK1	このデータをコピー(C)			+01
40842	JR3	デュープチェック(K)			+01
40843	JH7	バンド・モード別状況(B)...			-05
40844	JF6	このデータ後の交信局数を表示(D)			+09
40845	JA4	降順に表示させる(J)			+10
40846	JH3	hQSL / User の表示(H)			+00
40847	JH1	以下を全部取り込む(O)			+07
40848	JK2	Callsignを取り込む(S)			+20
40849	JA4	Nameを取り込む(N)			+04
		Code, QTHを取り込む(Q)			+00
		Remarks 1 を取り込む(R)			
		Remarks 2 を取り込む(K)			

図7 メインウィンドウ上の右クリックメニュー

図7 メインウィンドウの 右クリックメニュー

図7は、メインウィンドウ上での右クリックメニューです。

図7 このデータをコピー

選択行の交信データをクリップボードにコピーします。

図7 デュープチェック

選択行のコールサインを入力してEnter キーを押したのと同じ状態になります。

図7 バンド・ モード別状況

表示メニューにある「バンド・モード別状況」と同じで、メインウィンドウ上の選択行のバンド・モード別状況を表示します。

1338 埼玉県蓮田市					
	CW	FT8	SSB	FM	SSTV
1.9	C				
3.5		C	C		
7		C	C		
21			C		
28				C	
50			C	C	C
144		C	C		
430		W		C	
該当件数:79件					

図8 メインウィンドウ上から表示させたバンドモード別のコンファーム状況

図8は、筆者の近隣の埼玉県蓮田市との交信状況で、各バンド、モードで交信してコンファーム済みであることがわかります。

図7 このデータ後の交信局数を表示

ここで指定したデータ後の交信局数と、本日の交信局数をメインウィンドウ下部に表示します。

環境設定の「設定1」タブにある「このデータ後の交信局数を表示」を一時的に変更するものです。

図7 降順に表示させる

メインウィンドウの交信データ表示の降順／昇順を切り替えます。

降順に表示しているときは、このメニューにレ点が付きます。

図7 hQSL / User の表示

メインウィンドウの右端に HAMLOG ユーザー登録局であれば「user」と表示し、hQSL にも登録して

いる局であれば[hQSL]と表示します。

表示しているときは、図7のようにメニューにレ点が付きます。なお、HAMLOGユーザー登録局のみ有効な機能です。

図7 ○○○を 取り込む

メインウィンドウの交信データを入力ウィンドウにコピーします。複数あります。

図9 入力ウィンドウの 右クリックメニュー

図1 (p.146) と図9は、入力ウィンドウ上での右クリックメニューです。

コールサイン・メモ	F2	Clear NextLOG Save
デュープチェック	F3	
<DX>コード入力	F4	
<市>コード入力	F5	
<郡>コード入力	F6	
<区>コード入力	F7	
<町>コード入力	F8	
<村>コード入力	F9	
QTH検索メニュー		

入力環境設定(K)...		全項目をコピー(C)	
編集と登録(E)	>	全項目貼り付け(A)	
入力欄へジャンプ	>	貼り付け(P)	
リグの周波数を設定	Ctrl+F	データの登録(S)	F12
リグの周波数再読込		入力バッファクリア(B)	
VFOの切替え	Ctrl+B	クイックQSL印刷(Q)	
PTTの on/off	Ctrl+P	ワッチデータへの登録(W)	Ctrl+W
全項目を[上書きモード]とする		最終データからQTHコピー(V)	
バンド・モード別状況(B)...		QRZ.COM表示(Z)	

図9 入力ウィンドウの右クリックメニュー。右側にサブメニューを表示している

図9 コールサイン・メモ F2

図10のウィンドウが表示されます。右クリックメニュー以外にも F2 キーを押しても表示され、コールサインなどの文字列を一時的に登録することができます。

各項目は次のとおりです。

- **Call** コールサインを入力しておきます。プリフィックスやサフィックスだけでもOKです。
- **kHz** 周波数のピリオドを除く kHz の部分を入力しておきます。入力しなくてもかまいません。
- **Memo** 単なるメモです。

使い方の例としては、バンド内にコールしたい局が複数いる場合、そのコールサインと周波数のkHz単位

コールサイン・メモ			
No	Call	kHz	Memo
1	JG1		
2	MOU		
3			
4			
5			
6			
7			

図10
入力ウィンドウ
でF2キーを押
して表示され
たコールサイン
メモ

をメモしておきます。

Enterキーを押すと、コールサインと周波数のkHz単位の部分がコピーされます。

また、複数の局にコールされたとき、聞き取れただけのコールサインやサフィックスをメモしておくのにも便利です。

Call欄に英字3文字以内を入れた場合は、サフィックスのみを入力したと判断し、Enterを押したときにサフィックスの位置にコピーされます（コールサイン欄が上書きモードの場合）。

図9 <市>コード入力 F5 ~ <村>コード入力 F9

それぞれ、頭文字を入れて市郡区町村コードを選択入力します。

図11は、1エリアの[く]で始まる町を選ぶ状況で、Enterキーを押すと図12のように一覧表示され、選択入力することができます。

図9 全項目を[上書きモード]とする

クリックするたびにすべての入力編集項目の上書きモード/挿入モードが切り替わります。

1エリア<町>

頭文字を入力してください: DX(D) 市(C) 郡(G) 区(K) 町(T) 村(B)

都道府県コードを入力:

1エリア<町>

10東京都, 11神奈川県, 12千葉県, 13埼玉県
14茨城県, 15栃木県, 16群馬県, 17山梨県

☒ 消滅した地名は表示させない

Ctrl+数字キー、↑・↓キーでエリア変更

図11 市郡区町村コードを頭文字で選択入力する状況

No	Code	QTH	Flag	1	3	7	10	14	18	21	24	28	50	14	43
/	12008A	千葉県山武郡九十九里町	7<1			C								C	
0	16001B	群馬県吾妻郡草津町	7<1		C	C						C	C	C	
1	22006A	京都府久世郡久御山町	7<3			C									
2	25002A	大阪府泉南郡熊取町	7<3		C	C							C		
3	26002A	和歌山県伊都郡九度山町	7<3												
4	26006H	和歌山県東牟婁郡串本町	7<3		C	C									
5	31010D	岡山県久米郡久米南町	7<4			C									
6	35001D	広島県安芸郡熊野町	7<4			C							C		
7	38005F	愛媛県上浮穴郡久万高原町	7<5		C										
8	39007H	高知県幡多郡黒潮町	7<5			C									
9	40007B	福岡県鞍手郡鞍手町	7<6			C							C		
A	44005A	大分県玖珠郡玖珠町	7<6			C							C		

↑・↓キーでスクロール, Ctrl+数字でエリア, [F8-F9]等で戻る, [Esc]で中断 *

図12 1エリアの“<”から始まる町の一覧

Insキーを押せば、個別に挿入／上書きの変更ができますが、ここでは一括して挿入／上書きを変更します。挿入モード時は、入力ウィンドウ上に[Ins]という文字が表示されています。

図13 時計の表示位置調整

図13は、入力ウィンドウ右上に表示されている時計です。右クリックメニューで表示位置を1ピクセルずつ調整することができます。

図14 交信履歴一覧上の右クリックメニュー

図14は、入力ウィンドウ上でコールサイン

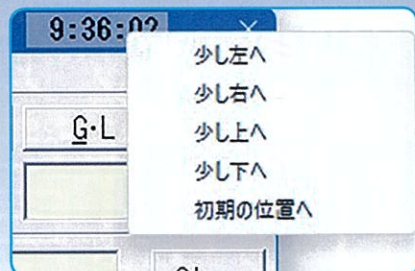


図13 入力ウィンドウ右上に表示されている時計の右クリックメニュー

を入力したときの過去の交信履歴で、右クリックメニューを表示させた状況です。

図14 降順に表示させる

交信履歴データ表示の降順／昇順を切り替えます。

降順に表示しているときは、このメニューにレ点が付きます。

そのほかにも、右クリックメニューに表示されたとおりの機能があります。

それでは、次号に続きます。 (C)

7M1SZJ局との交信 (過去162回) LOG-[A] IC-7410		
No	Call	
31641	7M1SZJ/1	データを取り込む [Enter]
33957	7M1SZJ	Nameを取り込む Ctrl+N
34308	7M1SZJ	Code, QTHを取り込む Ctrl+Q
34370	7M1SZJ/1	Remarks 1を取り込む Ctrl+R
35485	7M1SZJ/1	Remarks 2を取り込む Ctrl+K
36711	7M1SZJ	G-Lを取り込む Ctrl+G
36913	7M1SZJ/1	メインウィンドウへ(M) Ctrl+M
38373	7M1SZJ/1	データの修正(E) Ctrl+E
		再描画(V) Ctrl+V
		降順に表示させる
		閉じる [Esc]

図14 入力ウィンドウでコールサインを入力して表示された過去の交信履歴の右クリックメニュー